

町長日誌 No.166



町長日誌の第166号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

8月18日(金)

今年は肌寒い中でお盆が終わってしまった気がします。昨年はこの時期に台風7号が本道に近づき、17日朝には排水ポンプの設置を行うなどの警戒態勢を取りました。幸い大きな影響はなかったのですが、20～21日にかけては台風11号、23日には台風9号、そして、台風10号が30～31日にかけて東北に上陸した後、十勝、上川南部を中心に大きな被害をもたらしたことは記憶に新しいところです。未だに被害に遭った橋などは復旧されておらず交通に不便を来しているところもあります。興部町では23日の台風9号が短時間に雨を降らせ、特に豊野から沙留方面にかけて排水不良や浸水、水道の断水、道路の崩落などが小規模ながら多数発生しました。今年は、今のところ「オホーツク海高気圧」の勢力が強いためか、寒い夏ですが幸いにもこれまで台風が近づかず、このままで過ぎてほしいと願っています。



7月18～20日(火～木)

福岡県糸島市にバイオガスセミナーの講師として招待されました。糸島市は福岡市の隣に位置して人口約10万人の都市ですが、牡蠣の獲れる漁港あり、コメや畑作、花卉(胡蝶蘭が有名)、野菜、さらには養豚、肉肥育、酪農とありとあらゆる農業が営める都市近郊型の農家が沢山あるのですが、何しろ高速道路のインターチェンジがある為福岡県内外から新鮮な農水産物を求めて人が押し寄せます。しかし、住宅地として発展する一方、養豚・酪農の排せつ物処理、汚水対策さらには悪臭対策と頭の痛い課題と何でも栽培できることからこれと言った全国展開できるものが無いのも大きな悩みなのです。そこで、建設業者や流通業者など農業以外の業界が、糸島の発展のためにはこれらの課題を解決し糸島ブランドを確立

て全国に発信したい、その為には家畜排せつ物や野菜くずなどを活用したバイオガス事業を進めたいということ、私をはじめ帯広畜大の梅津教授、バイオガスの草分けである士幌町の鈴木さんが今回招待され1日目は現地調査をさせて頂き、2日目には私たちの取り組み事例などを発表させて頂きました。この糸島にはJAが直営する「伊都菜彩」と言う商品持込み型の直売所があり日本一の販売額を誇っています。バイオガス施設が新たな展開の起爆剤となってくれればと願っています。

8月5日(土)

旭川市で行われた「北海道の交通体系を考えるセミナー」と言うJR問題を考える集会に出席して、夕方5時頃興部に戻りました。朝のうち雨が降り心配していた夏まつり前夜祭の花火大会でしたが、お陰様でまずまずの天候となりました。今年はお客様の出足が早く6時前から会場がかなり埋まりだしました。今年も(株)ニトリ様から沢山の応援寄付を頂き4400発の花火が打ち上げられました。打ち上げ時間の8時になると会場は人で溢れんばかりで、駐車場やトイレが足りないほどの状況です。町外からの来客も多く国道はかなりの車で数珠つなぎの様な状況であったと聞きました。今年も2部構成で素晴らしい花火が息もつかせぬぐらい次々と打ち上げられました。また、丁度良い風が煙を吹き流してくれ、その煙さえもが花火の光と相俟って美しい模様を大空に描いてくれました。実行委員会の中心となる観光協会は今年から一般社団法人として独立して初めての夏祭りでしたが、本祭りも天候に恵まれ本当に良いお祭りであったと感じました。参加された皆様、そして準備運営に当たられた皆様、本当にご苦労様でした。来年はさらに素晴らしいお祭りになることを期待しています。



新聞にも掲載されていましたが、沙留中学校3年生の菅原玲奈さんが陸上中体連走り高跳びの全道大会を勝ち抜き、熊本県で開催される中体連全国大会に出場します。21日に予選が行われ、165cmを飛ばせば23日の決勝に進むことが出来ます。沙留中学校がその歴史の幕を閉じる年の快挙に心からの応援を送ります。さて、小学校・中学校ともに新学期が始まります。季節は秋へと移り変わりますので皆様ご自愛ください。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

